

平成28年度 第2回 PF-UA 幹事会、第1回 PF-UA 運営委委員会 合同委員会 議事録

日時：平成28年9月11日 9:45-10:25

場所：KEK つくばキャンパス 4号館 2階輪講室 1,2

出席者：[幹事会] 平井 光博（会長）、近藤 寛（庶務）、田中 信忠（会計）、植草 秀裕（行事・書記）、山本 勝宏（編集・広報）、腰原 伸也（戦略・将来）、朝倉 清高（戦略・将来計画）、奥部 真樹（推薦・選挙管理）、米山 明男（共同利用）、奥田 浩司（教育） [運営委員会] 足立 伸一、雨宮 健太、河田 洋、木村 千里、齋藤 智彦、櫻井 伸一、佐々木 聡、佐藤 衛、志村 考功、千田 俊哉、中山 敦子、沼子 千弥、増田 卓也、村上 洋一、百生 敦、横谷 明德、三木 邦夫（藤橋 雅宏 代理出席）

・PF-UAの現在までの活動について（平井会長）

KEK 放射光計画に関して、4-9月までのPF-UAの具体的な対応として、第1回戦略・将来計画検討小委員会、幹事会・運営委員会のメール審議、第1回幹事会、第2回戦略・将来計画検討小委員会、KEK放射光検討委員会準備会の活動について紹介した

・会計報告（田中会計幹事）

平成27年度会計報告（最終）、平成28年度予算案を報告し、運営委員会で承認された。平成27年度は黒字を次年度に繰り越す。平成28年度はワークショップ・研究会による支出増加を見込んだ予算とした。広告や賛助会員の増強に努力する。

・戦略・将来計画小委員会の活動報告（平井会長）

KEK放射光計画を推進するために「PF-UA KEK放射光検討委員会」を置く。これは「運営形態検討委員会」、「ビームライン検討委員会」、「ビーム利用検討委員会」から構成され、それぞれの構成とミッションについて報告した。対応して、KEK PF側には「KEK放射光検討ワーキンググループ」が置かれ、長期計画、光源、ビーム利用、ビームライン、運営形態の各検討WGから構成される。「PF-UA KEK放射光検討委員会」は、PF-UAユーザー・スタッフだけでなく、他放射光施設や他量子ビーム施設の関係者にもご協力をいただいて構

成・設置された全日本体制の検討組織である。

- ・施設報告（村上施設長）

共同利用関係として、予算とビームタイム、課題数や論文数、ユーザー分布、産業利用活性化に関する試行利用の設定、今年度運転計画を紹介した。将来計画として、計画の現状、CDR (Conceptual Design Report)完成スケジュール、「KEK 放射光検討ワーキンググループ」各検討WG組織、インターネットを使った対外広報体制について紹介した。

- ・PF-UAの今後の活動について（平井会長）

「運営形態検討委員会」、「ビームライン検討委員会」、「ビーム利用検討委員会」の構成と委員リストを報告した。

KEK放射光計画に対するPF-UAの今後の活動方針を報告した。PF-UA KEK放射光検討委員会と施設側のKEK放射光検討ワーキンググループとの密接な連携のもとで、KEK放射光計画の今後の予定に合わせて、PF-UAの各検討委員会の活動予定を決定する。計画の進捗状況に関して、KEK放射光ホームページやPF-UAホームページなどを利用して全PFユーザーおよび関連各所へ速やかに情報発信を行うと同時に、各ユーザー、ユーザーグループを通じて、研究会、学会等での広報を行う。

「運営形態検討委員会」、「ビームライン検討委員会」、「ビーム利用検討委員会」（任期2016年7月1日～2018年3月31日）の活動スケジュールについて概要を報告した。

- ・運営形態検討委員会はPF将来計画検討委員会最終報告を参考に、新光源の運用形態のあり方と実現に関して具体的な検討を開始する。KEK放射光計画のall-Japan体制での推進のために、各所への働きかけを行う。
- ・ビーム利用検討委員会はPF-UAを含むall-Japanユーザーからの提案により、KEK放射光計画のCDRのサイエンスケースを作成する（9月7日に暫定版を公開）。「KEK放射光ワークショップ」における議論によりCDRを深化させ（10月上旬）、その後も更新を行う。
- ・ビームライン検討委員会は次年度のTDR (Technical Design Report)の完成に向け、今年度後半にall-Japan体制で委員会を立ち上げ、CDRを完成させる。先端的研究・高度化研究・基盤機器開発の各ステーションの実現に向け、

ビームラインの具体化に向けた検討を開始する。来年3月に開催予定のMAC (Machine Advisory Committee)を経てTDRの作成に向かう。
なお今後のスケジュールに関しては、各委員会で協議する。